臨床経験

慢性透析患者における透析療法に対する理解度の検討

北谷真利子　古工　操　加地　環　尾嶋　美恵　遠藤　智江
竹内　則子　久米　宏実　喜来　潤子　裏加　久子　渡辺　恒明

小松島赤十字病院　透析室

要　旨

平成２年４月より導入期指導パンフレットを作成し患者指導を行っているが、必ずしも患者の理解が充分でないと思われた。そこで平成２年４月から平成９年４月までに血液透析に導入した患者29名に対し、特に知ってほしい５項目の聞き取り調査を行った。中でも理解不足の患者に対しては調査後に再指導を行った。２ケ月後に再度聞き取り調査を行った結果、パンフレットによる指導よりも患者との対話による質疑応答形式での指導方法がより理解度を深め有効であった。

キーワード：導入期指導、慢性透析患者、質疑応答形式での指導方法

はじめに

当院では平成２年４月より新しく作成した導入期指導パンフレットを用いて、血液透析導入患者に対して指導を行っているが、必ずしも患者の理解が充分でないと思われたので、患者の理解度を把握し今後の指導のあり方について検討した。

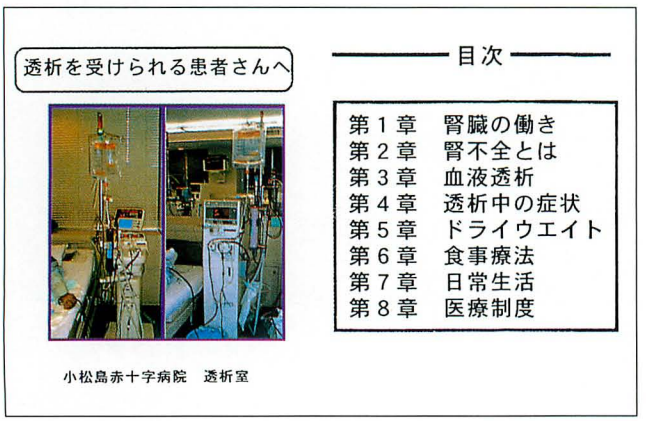


Fig. 1

研究方法

１）対象

平成２年４月から平成９年４月までに血液透析に導入した患者29例で、導入時年齢は29歳から78歳、平均年齢58.6歳で透析歴は４か月から６年１か月である。

調査対象

症例総数	29例	
導入年齢	60歳未満	16（55%）例
	60歳以上	13（45%）例
	29～78歳	（58.6±12.3）
透析歴	１年未満	6（20%）例
	１年～3年	11（38%）例
	３年以上	12（42%）例

Fig. 2

２）調査及び指導の実際

当院の導入期指導パンフレットに基づき、特に知ってほしい項目の血液透析の原理、シャントの自己管理、ＤＷ、食事療法、薬の作用の５項目について質問用紙を作成し理解度に対して聞き取り調査を行った。理解が充分でない患者に対しては質問の後で再指導を行い２か月後に理解度の確認を行った。

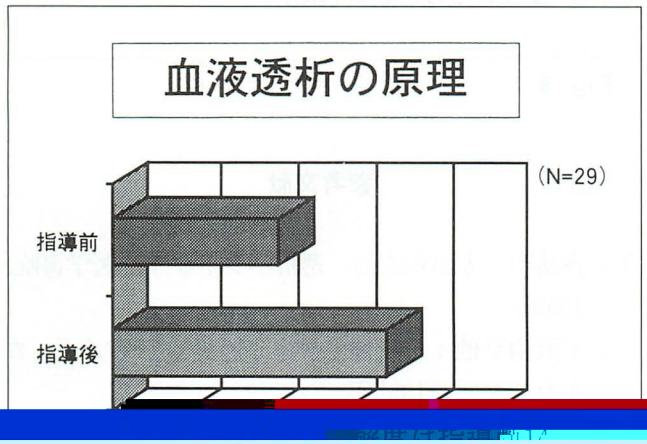
質問項目

- 血液透析の原理
- シャントの自己管理
- ドライウエイト（D.W.）
- 食事療法
- 薬の作用

Fig. 3

結果及び考察

血液透析とはどういう事をしているか知っていますかと言う質問については、指導前72％、指導後86％と理解度は良くなっているが、高齢者では無関心な人もあった。



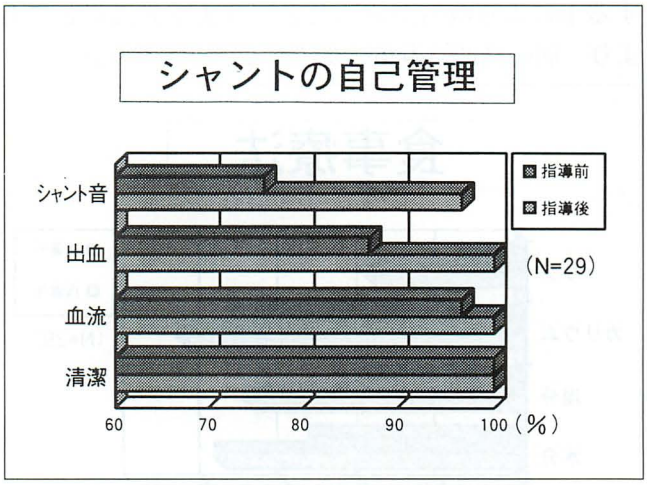


Fig. 5

血液透析後の体重を知っていますかと言う質問ではほとんどが理解できており、指導後には全員が理解できるようになった。

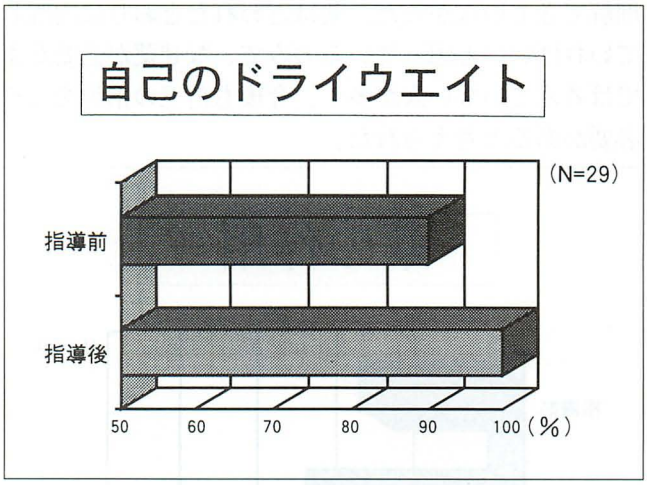


Fig. 6

する事により改善がみられた。今後家族に対してもより一層の調理指導が必要であると考えられた。

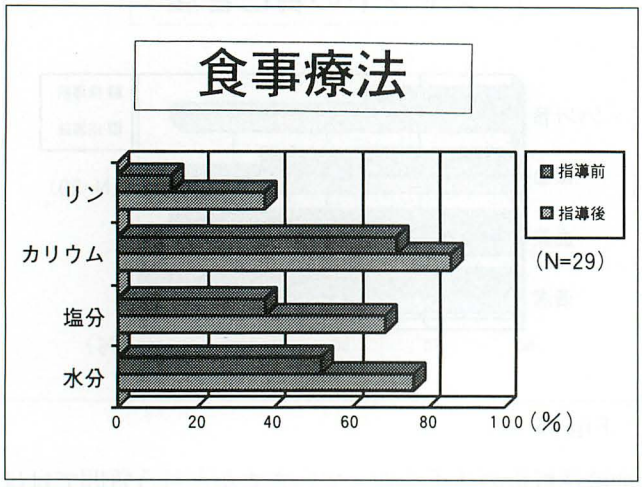


Fig. 7

薬の作用については、指導前34%で指導後も48%しか理解できていなかった。薬は言われたとおりに内服していればいいと思っているのみで、なぜ薬が必要かまでは考えていない人が多く、今後も再三の指導を行う必要があると考えられた。

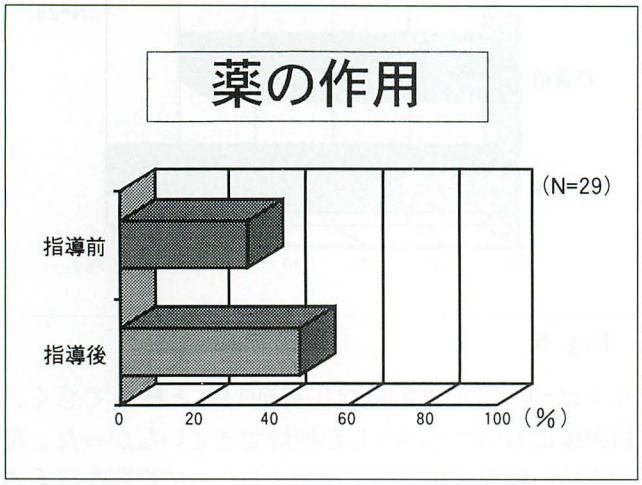


Fig. 8

おわりに

血液透析患者29例に対して5項目の質問事項について聞き取り調査し、再指導の方法を検討した。
患者との対話による質疑応答形式での指導を行った結果、従来のパンフレットによる指導よりも理解度をより深め有効であり、以後の生活指導にも役立つと思われた。

結語

血液透析患者29例に対し5項目の質問事項を聞き取り調査し、再指導の方法を検討した。
患者との対話による質疑応答形式での指導を行った結果、従来のパンフレットによる指導より、全項目で理解度を深め有効であり、以後の生活指導にも役立つものと思われた。

Fig. 9

参考文献

1）斉藤明　太田和宏他；透析ハンドブック医学書院、1993年
2）平沢由平他；透析療法マニュアル、日本メディカルセンター、1993年
3）小松島赤十字病院透析室編；透析を受けられる患者さんへ、1994

A Study on Understanding of Dialysis Therapy in Chronic Dialysis Patients

Mariko KITATANI, Misao KOKOO, Tamaki KAJI, Mie OSIMA,
Tomoe ENDOU, Noriko TAKEUCHI, Hiromi KUME,
Junko KIRAI, Hisako URAKA, Tuneaki WATANABE

Division of Dialysis, Komatushima Red Cross Hospital

Although we have made an instruction pamphlet of the introduction phase and instructed patients since April, 1990, they seemed not to always understand it sufficiently. Therefore, we conducted an oral survey of five items which should be specially known, in 29 patients who were introduced to hemodialysis during the period from April, 1990 to April, 1997. Especially, those patients who were found to understand it insufficiently were instructed again after the survey. Two months later, the oral survey was repeated. The results indicated that the instruction method of the question and answer type by conversation with patients was more effective to deepen its understanding in comparison with instruction by pamphlet.

Keywords : instruction of the introduction phase, chronic dialysis patients, instruction method of the question and answer type

Komatushima Red Cross Hospital Medical Journal 3 : 120－123, 1998